

地域企業と連携した PBL とキャリア教育の連関

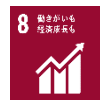
～SNS 実践を活用した認知向上と地域企業の理解～

国際商経学部 経済・経営コース
プロジェクトゼミ（企業課題グループ代表）

○准教授 はまだ ひろし
濱田 洋

キーワード

PBL、課題解決型学習、企業連携、地域企業の理解、
キャリア教育



研究概要

国際商経学部では、1年生から4年生まで少人数制のゼミに所属するのが伝統となっています。特に1年生後期から2年生前期には、実際の企業課題を探索する「プロジェクトゼミ」が開講されており、本報告は経済経営分野におけるいわゆる課題解決型（PBL）学習の継続的実施と学生のキャリア教育の連関を考察することを目的としています。

このプロジェクトゼミでは、経済・経営学の理論習得を基礎としながら、グループを組み課題へ取り組みます。学生は共同での課題の分析、論理的な解決策の提案などを通じて、将来のキャリア形成に不可欠な基礎力を養うことを企図しており、運営にあたっては、地域企業や関係団体（兵庫県中小企業家同友会、大学コンソーシアムひょうご）の協力を得て実施されています。本年7月に終了したプロジェクトゼミでは、株式会社マルヤナギ小倉屋様、株式会社新興商運様、株式会社舟引工務店様、株式会社コンサクレ様と連携し、新規直営店の認知向上、若者に対する業界等の理解向上、新商品企画といった様々な課題に、約50名の学生が10ヶ月間取り組みました。この中で、マルヤナギチームでは現地見学、SNS動画の作成等を基礎にファン育成施策などの提案を行い、企業プレゼン・フィードバックを通じてターゲット分析の必要性や費用対効果分析の重要性等のさらなる学びを深める機会となりました。本報告を通じて、PBL型学習とキャリア教育との連関が、理論と実践の融合により、学生の意識変容と基礎力形成に貢献する可能性が示唆されています。



アピール ポイント

本プロジェクトゼミは、大学教育と地域企業との連携を通じ、職業意識の醸成、主体性の向上など学生のキャリア形成を支援し、また理論と実践を架橋する人材の育成を図る教育システムとして、より多様な企業との連携などを通じて、継続的な地域企業との連携による価値創出とキャリア教育の連節点・専門教育への導入として発展する可能性があると考えられます。